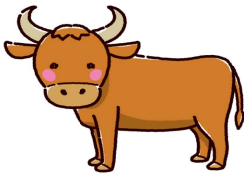
# た　ん　ぽ　ぽ

２学年だより
第５号　　2023/５/25
新発田市立東中学校２年

## 「いのちをいただく」授業を行いました

### 「いのちをいただく」

文　内田 美智子



坂本さんは，食肉加工センターに勤めています。
牛を殺して，お肉にする仕事です。
坂本さんはこの仕事がずっといやでした。

牛を殺す人がいなければ，牛の肉はだれも食べられません。
だから，大切な仕事だということはわかっています。
でも，殺される牛と目が合うたびに仕事がいやになるのです。
「いつかやめよう。いつかやめよう。」と思いながら仕事をしていました。

◇◇◇◇◇◇◇◇

坂本さんの子どもは小学３年生です。
しのぶ君という男の子です。

ある日，小学校から授業参観のお知らせがありました。
これまでは，しのぶ君のお母さんが行っていたのですが，その日は用事があって，
どうしても行けませんでした。
そこで，坂本さんが授業参観に行くことになりました。

いよいよ，参観日がやってきました。
「しのぶは，ちゃんと手を挙げて発表できるやろうか」
坂本さんは，期待と少しの心配を抱きながら小学校の門をくぐりました。

授業参観は，社会科の「いろんな仕事」という授業でした。
先生が子どもたち一人ひとりに
「お父さん，お母さんお仕事を知っていますか？」
「どんな仕事ですか？」と尋ねていました。
しのぶ君の番になりました。
坂本さんはしのぶ君に，自分の仕事についてあまり話したことがありませんでした。
何と答えるのだろうと不安に思っていると，しのぶ君は小さな声で言いました。

「肉屋です。ふつうの肉屋です」

坂本さんは「そうかあ」とつぶやきました。

◇◇◇◇◇◇◇◇

坂本さんが家で新聞を読んでいると，しのぶ君が帰ってきました。
「お父さんが仕事ばせんと，みんなが肉ば食べられんとやね」

何で急にそんなことを言い出すのだろう，と坂本さんが不思議に思って聞き返すと，
しのぶ君は学校の帰り際，担任の先生に呼び止められて，こう言われたというのです。

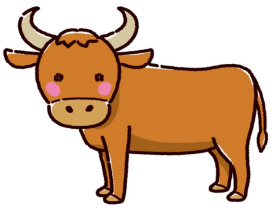
「坂本，なんでお父さんの仕事ばふつうの肉屋て言うたとや？」

「ばってん，カッコわるかもん。
一回，見たことがあるばってん，血のいっぱいついてからカッコわるかもん」
「坂本，おまえのお父さんが仕事ばせんと，先生も　坂本も　校長先生も
会社の社長さんも肉ば食べれんとぞ。すごか仕事ぞ」
しのぶ君はそこまで一気にしゃべり，最後に
「お父さんの仕事はすごかとやね」と言いました。

その言葉を聞いて，坂本さんはもう少し，仕事を続けようかなと思いました。

◇◇◇◇◇◇◇◇

ある日，一日の仕事を終えた坂本さんが，事務所で休んでいると，一台のトラックが食肉加工センターの門をくぐってきました。
荷台には，明日，殺される予定の牛が積まれていました。



坂本さんが
「明日の牛ばいね～」と思って見ていると，
助手席から十歳くらいの女の子が飛び降りてきました。
そして，そのままトラックの荷台に上がっていきました。

坂本さんは，「危かねえ」と思って見ていましたが，しばらくたっても降りてこないので，
心配になってトラックに近付いてみました。
すると，女の子が，牛の話しかけている声が聞こえてきました。

みいちゃん　ごめんねぇ。
みいちゃん　ごめんねぇ。

「みいちゃんが肉にならんとお正月が来んて，じいちゃんの言わすけん。
　みいちゃんば売らんとみんなが暮らせんけん。ごめんねぇ。みいちゃん　ごめんねぇ。」
そう言いながら，一生懸命に牛の腹をさすっていました。
坂本さんは「見なきゃよかった」と思いました。

トラックの運転席から女の子のおじいちゃんが降りてきて，坂本さんに頭を下げました。
「坂本さん，みいちゃんは，この子と一緒に育ちました。
だけん，ずっと，うちに置いとくつおりでした。
ばってん，みいちゃんば売らんと，この子にお年玉も，クリスマスプレゼントも買ってや　れんとです。明日は，どうぞよろしくお願いします。」
坂本さんはまた，「この仕事をやめよう。もうできん」と思いました。
そして思い付いたのが，明日仕事を休むことでした。

◇◇◇◇◇◇◇◇

坂本さんは，家に帰り，みいちゃんと女の子のことをしのぶ君に話しました。
「お父さんは，みいちゃんを殺すことはできんけん，明日は仕事を休もうと思っとる」
そう言うと，しのぶ君は「ふ～ん」と言ってしばらく黙った後，テレビに目を移しました。」

その夜，いつものように坂本さんは，しのぶ君と一緒にお風呂に入りました。
しのぶ君は坂本さんの背中を流しながら言いました。
「お父さん，やっぱりお父さんがしてやった方がよかよ。
心なか人がしたら，牛が苦しむけん。お父さんがしてやんなっせ」

坂本さんは黙って聞いていましたが，それでも決心は変わりませんでした。

朝，坂本さんは，しのぶ君が小学校に出かけるのを待っていました。
「行ってくるけん！」
元気な声と扉を開ける音がしました。
その直後，玄関がまた開いて

「お父さん，今日は行かなんよ！」「わかった？」と，しのぶ君が叫んでいます。
坂本さんは思わず
「おう，わかった」と答えてしまいました。
その声を聞くと，
しのぶ君は「行ってきまーす」と走って学校に向かいました。
「あ～あ，子どもと約束したけん，行かなねぇ」と，お母さん。
坂本さんは，渋い顔をしながら，仕事へと出かけました。

◇◇◇◇◇◇◇◇

会社に着いても気が重くて仕方ありませんでした。
少し早く着いたので，みいちゃんをそっと見に行きました。
牛舎に入ると，みいちゃんは，他の牛がするように角を下げて，
坂本さんを威嚇するようなポーズをとりました。
坂本さんは迷いましたが，そっと手を出すと，最初は威嚇していたみいちゃんも，次第に坂本さんの手をくんくんと嗅ぐようになりました。

坂本さんが「みいちゃん　ごめんよう　みいちゃんが肉にならないとみんなが困るけん。
ごめんよう」と言うと，みいちゃんは坂本さんに首をこすり付けてきました。
それから，坂本さんは，女の子とがしていたように腹をさすりながら
「みいちゃん，じっとしとけよ。動いたら急所をはずすけん，そしたら余計苦しかけん，
じっとしとけよ。じっとしとけよ。」と言い聞かせました。

◇◇◇◇◇◇◇◇

牛を殺し解体する，そのときが来ました。
坂本さんが「じっとしとけよ。みいちゃんじっとしとけよ。」と言うと，
みいちゃんは，ちょっとも動きませんでした。

その時，みいちゃんの大きな目から涙がこぼれ落ちてきました。
坂本さんは，牛が泣くのを初めて見ました。

そして，坂本さんが，ピストルのような道具を頭に当てると，
みいちゃんは崩れるように倒れ，少しも動くことはありませんでした。
普通は，牛が何かを察して頭を振るので，
急所から少しずれることがよくあり，倒れた後に大暴れするそうです。

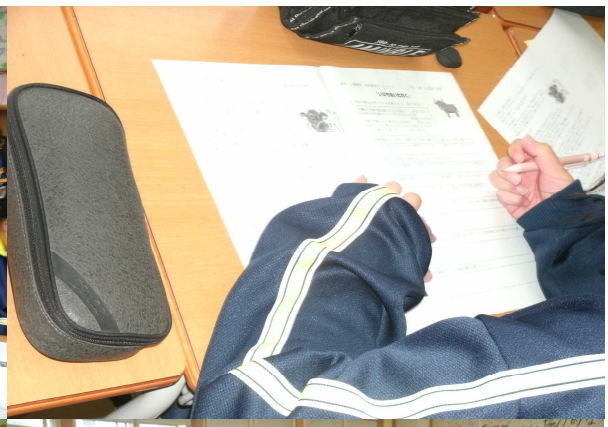
◇◇◇◇◇◇◇◇

後日，おじいちゃんが食肉加工センターにやってきて，しみじみ言いました。
「坂本さん，ありがとうございました。昨日，あの肉ば少しもらって帰って，
みんなで食べました。孫は泣いて食べませんでしたが
『みいちゃんのおかげでみんなが暮らせるとぞ。食べてやれ。みいちゃんにありがとうと言うてたべてやらな，みいちゃんがかわいそうかろ？食べてやんなっせ』と言うたら，孫は泣きながら『みいちゃん，いただきます。
おいしかぁ，おいしかぁ』
と言うて食べました。ありがとうございました。」

坂本さんは，もう少し，この仕事を続けようと思いました。

今週の５月22日（月曜日），道徳の授業で「いのちをいただく」（同和教育，人権教育）を行いました。

残念ながら未だ，仕事によって差別されたり，偏見をもたれたりする世の中です。特に人が嫌がるような仕事がそういう傾向にあるようです。
実際，私たちが美味しくお肉をいただけるのは，こういう仕事を営む人たちのお陰です。この仕事がなければ，お肉をいただくことはできないのです。お家の人の仕事も少し考えてもらう中で，学びを深めました。
また，もう一つ，お肉をいただくということは，動物たちの命をいただくことになります。動物の命を粗末にしないためにも残さず食べること，また敬意をもっていただくこと。そして，周りの人やご家族，自分の命についても一考してもらう機会としました。

生徒たちから書いてもらった気付きを以下に掲載します。

- 人間の命は動物などの命をいただいて生きているので，長生きしたいと思った。
- 自分たちの命のために牛などのたくさんの命が犠牲になっているからそのことに感謝して生きていきたい。
- 自分たちのために命を失っている生き物がいるということは，自分たちはその分命を大事にしたら良いと思った。
- 命は一つしかないので，遊びでも簡単に「死ね」などと言ってはいけないと改めて思った。
- 牛，牛の命を取り上げる人，牛を加工する人，牛を運ぶ人，牛を料理する人，すべての命に感謝して生きていきたい。自分もいろいろな人に感謝される人になれるといいなと思った。みんなが大切な命を大切にして過ごしていけるといいと考えた。
- 私たちは命をいただいている。自分の身体は，たくさんの命によって支えられていると考えると，自分の身体を大切に，そして家族や友だちの命を傷付けないように生きていきたい。
- 当たり前に牛肉を食べていたけど，この「いのちをいただく」を読んでもっと感謝して食べようと思いました。